

子供たちへのよりよい教育のため、教員は絶えず研修に努めることが必要です。多忙な日々の業務の中、「時間対効果」を意識し、「必要感」のある研修の運営に取り組んでいる城東小学校の取組をご紹介します。

教員に向けて行われる研修

- 校外研修 (行政機関等が行う研修)
- 校内研修 (組織的な教育のレベルアップが目的)
- 自己研修 (勤務時間外に各自で行う研修)



受動的で「やらされ感」の強い研修になっていないか？

(例) 研修で授業研究を行う場合のよくあるプロセス

- ① 指導案の作成 指導案の様式が決まっていることが多く、作成に多大な時間を要する
- ② 教材の作成等 掲示物や教材、ワークシート等、「普通の授業」ではできない過大な授業準備になりがち
- ③ 研究授業 研究授業の参観者は、自身の授業を自習にする必要がある
- ④ 授業研究会 (研究授業の振り返り) 研究会での発言者は限定されており、「対話的」な研究会となっていないことが多い

「ゆるふわ授業研」の提案・実施

- ◆指導案は作成しない
⇒授業のポイント等について、要点のみ事前に共有
- ◆リアルタイムの授業参観に加え、授業動画の視聴による参加も
⇒参観者の負担減と、児童の学びの時間の確保
- ◆授業研究会は行わない
⇒参観者がワークシートでフィードバック

ゆるふわ授業研 シート

●授業前から
氏名 () 担任 () 学年 () 科目 () 単元 ()

●授業中の意見
授業中に感じたこと
授業開始前に感じたこと
授業終了後の感想

●授業後から
氏名 ()

全員が授業を公開し、互いに学び合う授業研究を実現

研修主任を中心とした「研修改革」

- 「ゆるふわ授業研」※校内授業研究での実施
⇒時間的・心理的余裕の確保
- グループ別のテーマ研修
⇒学ぶ内容を自己決定できるよう仕組化
- 同僚の理解を深める研修
⇒悩みやストレスを組織的に解消する場づくり



先生の声

- ・負担感なく授業研修に参加でき、自分の授業を見つめ直すきっかけにもなった。
- ・自分の「学びたい」テーマを、主体的に研修することができた。
- ・今まで、多忙な業務の中、交流の少なかった同僚とコミュニケーションを取ることができてよかった。



併せて推進!

校時表や授業時数の見直し

学校の「時間設定」を適正化

研修等によるスキルアップは個人でできる働き方改革の1つ

教員がスキルアップする時間と環境の確保